

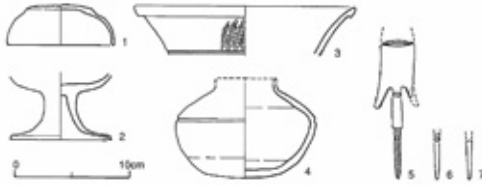
最後の前方後円墳

男女山トンネルを抜けて、約三〇〇m北上した国道西側の丘陵にある古墳は、土居天王山古墳（町指定史跡）とよばれ、鍵穴のような形をしたいわゆる前方後円墳です。前方後円墳は古墳時代前期（三世紀中頃）に近畿地方で築造され、以後、畿内の中央政権と深い関わりをもつ首長の墓として全国各地に築造されました。

土居天王山古墳は全長二七mを測り、埋葬施設は側面に入りがつく横穴式石室で、古墳の表面を石で覆う葺石や埴輪は確認されていません。



土居天王山古墳（土居）

土居天王山古墳出土遺物（図面）
※1～4が土器、5～7は鉄のやじり

土居天王山古墳石室入口

昭和初年に発掘した際に、刀や土器類など多数の遺物が出土し、写真撮影の後埋め戻したようですが、後に持ち去られほとんどが行方不明になっていきます。その後、昭和三二年（一九五七）に鏡野町総合調査に關連して調査が行われた際には、土器片と共に鉄のやじり（鉄鏃）・刀が出土していますが、これらも図面を残すのみで現物は見ることができず、この他に馬具や玉類が出土したという言い伝えもありますが、定かではありません。

出土した土器は、その型式からほとんどが七世紀初め頃に作られたもののようです。しかし、埋葬施設である横穴式石室は天井に向かうほど狭くなる形状で、石材も比較的小型であることから、出土した土器よりもやや古い時期の型式です。このことから、古墳自体は六世紀の終わり頃、時代区分でいえば古墳時代後期の終わり頃に築造され、七世紀代まで幾度か追葬されたと考えられます。

町内には八基の前方後円墳が確認されていますが、土居天王山古墳以外の七基の古墳は、いずれも埋葬施設は堅穴式石室や棺桶を直接埋葬した古いタイプのもので、横穴式石室は六世紀頃、古墳時代後期から全国に普及した新しいタイプの埋葬施設になります。

の形になり、築造数も減少します。被葬者も地域の権力者であることは間違いありませんが、必ずしも突出した存在ではありません。

土居天王山古墳は、こうした前方後円墳が廃絶する直前に築造された古墳で、香々美川流域では最後に作られた前方後円墳です。この頃になると近隣では法明寺火の釜（香々美）のように、立派な横穴式石室を持つ円墳も築造され、少し後には美作地域でも最大規模の横穴式石室をもつ井上大塚古墳（真加部・円墳もしくは方墳）が築造されています。これらと比較すると、やはり土居天王山古墳は時代遅れの感が否めませんが、全国的に見れば、こうもり塚古墳（総社市）や見瀬丸山古墳（奈良県）など、この頃に築造された大王墓とされる横穴式石室をもつ大規模な前方後円墳も存在します。

頃、前方後円墳は先に説明したように、中央政権とのつながりの深さを誇示するモニュメントでもあり、そこに葬られる者は地域の突出した権力者という位置付けでした。しかし、古墳時代後期になると古墳の小型化が進み、前方後円墳はどちらかといえば流行遅

れ、古墳時代後期になると古墳の小型化が進み、前方後円墳はどちらかといえば流行遅

参考：『鏡野町史』『鏡野町の文化財』『鏡野の歴史 史料集(1)』

鏡野町教育委員会 生涯学習課 日下

電話(0868)54-7733